

4 東京の魅力を楽しめるまちづくり

戦略10 わかりやすい情報提供

重点戦略 5

(関係局：都市整備局、産業労働局、建設局、交通局)

<現状と課題>

- 絵文字や多言語表記など、高齢者や障害者をはじめ国内外から東京を訪れる人にとってもわかりやすい内容の案内サインの設置や、音声や携帯端末を利用した情報提供等、適切な誘導を行うための取組は、まだ十分とはいえない。
- まちの中を快適に移動するためには、道路上や駅などの主要ポイントで必要な情報が適切に提供できることが重要である。
- また、東京を訪れた外国人が、観光や食事等を楽しむための必要な案内の整備やソフト面による対応も必要である。

<主な施策と事業>

施策1 情報新技術を活用した情報提供

- 日本の最先端技術を活用して、「いつでも、どこでも、だれでも」が必要な情報にアクセスできるユビキタス・コンピューティング社会の実現を目指すとともに、日本の技術力を東京から国内外に情報発信していきます。
- 「10年後の東京」計画で示された、10の「ユニバーサルデザイン重点整備エリア」においてユビキタス技術等を活用し、外国人や子どもを含むすべての人が、一人でも不安や不自由を感じることなく歩くことができるユニバーサルデザインのまちづくりを推進していきます。

主な事業	現在 (20年度末までの見込み)	5年後の目標 (25年度末までの到達目標)
東京ユビキタス計画 (都市整備局) 照明灯や歩道などに埋め込んだＩＣタグ等を介して、移動支援や観光・店舗など、今いる場所に応じた情報を提供するユビキタス空間場所情報システムを活用し、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進する。	平成17年度に上野地区、平成18年度からは銀座地区において実施している。平成20年度は西新宿地区を加え、銀座～西新宿間を結び、誘導案内を行う実証実験を実施。	ユビキタス空間場所情報システムを用いた情報提供サービスを、銀座及び西新宿地区で定常的に運用する。

施策2 案内サインの整備

- 高齢者や障害者を含めたすべての人が安心して快適に移動ができるよう、まちの中の案内サインや駅の案内サインなどの整備を行っていきます。特に「10年後の東京」計画で示された、外国人観光客が多い又は利用者が多い駅を擁するエリアなど、10の「ユニバーサルデザイン重点整備エリア」において集中的に取り組を進めていきます。

主な事業	現在 (20年度末までの見込み)	5年後の目標 (25年度末の到達目標)
東京ひとり歩きサイン計画 (産業労働局) 外国人旅行者や障害者、高齢者を含めたすべての人が安心して東京の観光を楽しむように、ピクトグラム（絵文字）や多言語で表記した観光案内標識を設置する。 また、平成19年度策定した「案内サイン標準化指針」に基づき、区市町村に対して、案内サインの統一化を周知・促進していく。	歩行者用観光案内標識の設置エリアとして、新たに「ユニバーサルデザイン重点整備エリア」を加え、観光案内標識の設置を行っていくとともに、「案内サイン標準化指針」に基づく案内サインの統一化を区市町村等に周知・促進していく。	外国人旅行者や障害者、高齢者にとって必要な情報を掲載した観光案内標識を整備することにより、また、本事業を通じて都内に設置する観光案内標識デザインの標準化を図ることにより、旅行者にとって利便性が向上するとともに、地域に旅行者が訪れることによる経済波及効果が期待できる。



主な事業	現在 (20 年度末までの見込み)	5年後の目標 (25 年度末の到達目標)
隅田川案内サインの設置 (建設局) 東京を代表する河川において、すべての人が安心して観光できるよう、水辺の散策路情報や周辺史跡等の情報を盛り込んだ案内サインを設置する。	隅田川案内サインの設置	引き続き、案内サイン設置を実施する。
わかりやすい案内サインの改良 (交通局) 高齢者や障害者を含めたすべての人が都営地下鉄を円滑に利用できるよう、駅全体の案内サインをこれまで以上に分かりやすいものに改良する。	ホーム案内板 61 駅設置 全 101 駅中 93 駅設置完了 改良案内サインの検証完了	案内サインは検証結果を踏まえ順次拡大する。

施策3 外国人をはじめとする、すべての訪問者への対応

- 国内外からの観光客や外国人がまちの中を自由に行動できるよう、わかりやすい案内表示やガイドマップの作成など必要な情報を入手できる仕組みや、レストランでのメニューなどを多言語で標記することにより、再び訪れたいと感じるよう取組を推進していきます。
- また、東京を訪れる外国人旅行者に対して、観光ボランティアを活用した観光ルートのガイドサービスを提供することにより訪都客の増大を図っていきます。

主な事業	現在 (20 年度末までの見込み)	5年後の目標 (25 年度末の到達目標)
外国語によるメニュー等普及事業 (産業労働局) 外国人旅行者が、日本の食の魅力を堪能できるよう、外国語によるメニューを充実させるとともに、旅行者を温かく迎え入れる対応サービスの向上につとめ、ホスピタリティ溢れる世界都市東京を目指す。	平成 19 年度に作成したモデルメニューを活用して、都内の飲食店が外国語によるメニューを簡単に作成できるよう外国語によるメニュー作成支援システムを構築するとともに、各種研修会を開催する。	外国人旅行者がよく利用する飲食施設、商業施設などにおいて、多言語によるホスピタリティ溢れる接遇や表記が普及し、より多くの集客を図る。



¥2,300

旬の魚おまかせ(12貫・巻物1本セット)

Sushi with fish in season - Chef's special(12 pieces and one roll)

제철의 맛김 (12개+ 김초밥1개세트)

应时的寿司(12个·寿司卷1个组套)

應時的壽司(12個·卷壽司1個組套)

主な事業	現在 (20 年度末までの見込み)	5年後の目標 (25 年度末の到達目標)
観光ボランティアの活用 (産業労働局) 東京を訪れる国内外からの旅行者のニーズに対応し、利便性の向上を図るため、観光ボランティアの育成などを行い、情報提供体制の充実を図る。 また、東京を訪れる外国人旅行者に対して、観光ボランティアによる主要観光ルートのガイドサービスや、都庁案内ツアーなどを実施し、訪都客の増大を図る。	ボランティアの活動実績向上のため、東京都のビッグイベント（東京マラソン等）や区市町村等公共団体へ利用促進を促す。 また、ボランティアの質の向上を図るため、研修の充実を図る。	ホスピタリティの向上と訪都客の増大を図る。 【参考】 2016 年に外国人観光客 1,000 万人を誘致 （「10 年後の東京」計画より）
外国人にもわかりやすい停留所標記と路線案内板の設置 (交通局) 外国人観光客の利用が多い、駅周辺にある都営バスの停留所の標識柱やターミナル等に設置してある路線案内板に、英語、韓国語、中国語の表記を追加する。	標識柱 100 本 路線案内板 20 基	駅周辺の標識柱や案内板について順次 4 か国語表記を実施する。

戦略11 魅力向上に向けた整備

(関係局：建設局)

＜現状と課題＞

- 東京を訪れる国内外からの人だけでなく、休日を過ごす都民にとっても東京のまちを楽しむことができるよう都内の観光施設などにおいても、アクセスの確保や案内表示等の工夫が重要である。

＜主な施策と事業＞

施策1 魅力向上に向けた整備

- 文化・芸術で溢れ、多くの人が集い楽しむため、公園の整備を進めていきます。

主な事業	現在 (20年度末までの見込み)	5年後の目標 (25年度末の到達目標)
「文化の森」上野恩賜公園の再生 (建設局) 文化施設の集積や歴史遺産を活かし、上野恩賜公園を東京の「顔」となる文化の森として再生する。	再生基本計画の策定	再生基本計画に基づき、公園を再整備する。

